

福 井 県 医 師 会

だより

第672号 平成29年(2017)6月



クモマツマキチョウの舞い

福井市 左合 直

表紙写真説明：クモマツマキチョウの舞い（2013年6月9日 長野県上高地）

福井市 左合 直

雪解けの頃、中部山岳の沢沿いに現れる珍しい蝶だが、雪溪やガレ場を舞う清楚なオレンジは、日本の蝶の中でも際だった美しさだ。花は食草のヤマハタザオ。花の少し下の茎には乳白色やオレンジ色の紡錐形の卵が産み付けられている。

醫 縫 録

内科医、呼吸器専門医の育成へ向けて

福井大学病態制御医学講座内科学（3）教授 石 塚 全



平成24年12月より福井大学内科学（3）分野の教授を務めております石塚 全（いしづか たもつ）と申します。日頃より福井県医師会の先生方にはお世話になっており、誌面を借りて御礼申し上げます。内科学（3）分野は診療科としては呼吸器内科と内分泌代謝内科からなっており、呼吸器内科を私が、内分泌代謝内科を此下忠志診療教授が担当しております。

私は両親が神奈川県出身ですので横浜市で生まれておりますが、父親の転勤のため、鹿児島市、岡山市、神戸市と各地で過ごし、高校3年時から福井大学に着任するまでは前橋市に居りました。昭和59年に最近世間をお騒がせした群馬大学医学部を卒業し、大学病院で1年間研修後、9年間の関連病院勤務と3年半の米国留学を経て平成10年から24年まで群馬大学に勤務しました。

私の専門は呼吸器内科ですが、専門分野以外も診療した期間が長く、今になってみれば良かったことだと思っています。大学では、気管支喘息の病態に関する研究として、マスト細胞、気道上皮細胞、気道平滑筋細胞の機能について、細胞内シグナル伝達因子の解析を中心に行ってきました。臨床面では肺がん、間質性肺炎、難治性喘息に特に興味をもっておりますので、これらの疾患の治療の進歩に寄与できる研究が福井大学でできればと思っています。学会活動としては日本呼吸器学会と日本呼吸ケア・リハビリテーション学会の理事、北陸支部長を仰せつかっており、日本アレルギー学会の喘息予防・管理ガイドラインの作成にも関わっております。また、中央肺移植適応検討委員会委員として肺移植適応の審査や福井県感染症診療協議会委員として福井県の結核診療にも参加させていただいております。少しでも、福井県の医療の発展に貢献できればと思っています。

福井大学に異動してから4年以上経過し、福井県内科医会やその他の講演会などを通じて福井県の多くの先生方と親しくさせていただいております。ま

た、呼吸器関連の様々な研究会の企画、運営にもご協力いただいております。大変感謝しております。福井県に限ったことではありませんが、高齢化社会を迎え、肺がん、COPD、肺炎などの呼吸器疾患による死亡数が増えています。肺がんは分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の登場により、従来の殺細胞性抗がん剤による治療だけでなく、がん細胞の遺伝子異常や蛋白質の発現を調べたうえでのきめ細かな治療が要求される時代になってきました。難治性であった肺線維症も抗線維化薬を積極的に使用する方向にあります。これらの難治性疾患はどうしても専門医中心の診療となるため大学病院や特定の病院に患者が集中します。一方、COPD、喘息などの慢性呼吸器疾患の診療では、安定期の治療を地域でご開業されている先生方へお願いし、増悪時に大学病院などで対応する病診連携をさらに構築する必要性を感じています。

福井県内には呼吸器専門医の絶対数が少なく、しかも偏在している状況のなかで、地域医療を支えている多くの県医師会の先生方とくに連携し、患者さんのQOLを重視した治療を展開していくかということは非常に重要な課題です。福井健康推進枠や嶺南枠の学生が福井大学を卒業し、内科医、呼吸器内科医を目指して私たちの仲間に加わってきています。単に、呼吸器専門医の少ない地域に、彼らを投入するという短絡的なビジョンではなく、県全体で医学生、若い医師を教育し、育てることを最優先していきたいと思っています。これからの福井県の医療を担う若い医師がやりがいのある環境で十分力を発揮できますように福井県医師会の先生方のご支援よろしくお願い申し上げます。